

第40回全国高等学校体操競技選抜大会参加資格者一覧表（男子）

令和6年1月26日 現在

1班（午前に競技）					
No.	選手名	学年	都道府県	学校名	解説
1	上澤 幹太	2	埼玉	埼玉栄	※No.1～No.8は、No.51～60に続く8名。 手順② 1・2年生を上位（No.51）から並べ、下位に3年生を並び替える。
2	大矢 龍翔	2	東京	駒澤大学	
3	今出 雄晴	2	京都	洛南	
4	白神 日向	1	岡山	関西	
5	佐藤 大介	2	京都	洛南	
6	溝田 稜樹	2	愛知	名城大附属	
7	土屋 真人	2	愛媛	新田	
8	淵上 宗太	2	大阪	大体大浪商	
9	泉 翔	2	北海道	旭川商業	※ブロック枠A ブロック1位の都道府県 手順④
10	飯高 孝規	2	福島	東日大昌平	
11	馬場 崇士	2	栃木	作新学院	
12	上原 翔大	2	福井	鯖江	
13	横山 大輝	1	岐阜	済美	
14	平本 怜	2	大阪	清風	
15	小林 立	1	岡山	関西	
16	奥田 拓哉	2	愛媛	新田	
17	山田 藏之輔	2	鹿児島	市立出水商業	
18	山本 琉生	1	北海道	東海大付属札幌	※ブロック枠B（普及枠） ・参加できる都道府県を増やすよう配慮 ・各ブロックの判断により、1枠を種目別出場に替えることも可能 手順⑤
19	山本 杏真	1	青森	弘前学院聖愛	
20	奈良 昶希	1	山梨	県立上野原	
21	上田 聖真	1	新潟	加茂	
22	梅村 蓄東	2	三重	暁	
23	鈴木 心	2	兵庫	姫路商業	
24	本宮 颯人	2	広島	崇徳	
25	小川 拓真	2	徳島	小松島	
26	荒牧 靖	2	福岡	九州国際大付属	
27	菅根 銘斗	2	神奈川	湘南工大附	
28	中江 遥斗	2	滋賀	栗東	注2 手順⑦
29	落合 遥生	1	茨城	茗溪学園	協会推薦
30	宇都宮 昂	1	埼玉	埼玉栄	注3 開催都道府県

2班（午後に競技）					
No.	選手名	学年	都道府県	学校名	解説
31	角皆 友晴	2	千葉	市立船橋	※No.31～No.42は、全国総体個人1・2年生上位12名 手順①
32	福林 玄輝	2	大阪	清風	
33	吉田 優生	2	栃木	作新学院	
34	片山 空秋	2	栃木	作新学院	
35	寺島 優雅	2	福井	鯖江	
36	坂東 優星	2	千葉	市立船橋	
37	山崎 海音	2	鹿児島	市立出水商業	
38	阿部 健芯	2	東京	日体大荏原	
39	葛西 太夢	2	京都	洛南	
40	小島 埜和	1	大阪	清風	
41	吉良 学人	2	香川	高松北	
42	北本 爽真	2	大阪	清風	
43	馬場 央太	2	千葉	市立船橋	※No.43～No.50は、全国総体上位8チームの都道府県 手順③
44	福島 琉斗	2	大阪	大体大浪商	
45	石原 銀河	2	栃木	作新学院	
46	山寺 健太	2	岡山	関西	
47	細川 天良	1	京都	洛南	
48	田中 漣	1	宮城	仙台大明成	
49	小松 幹明	1	東京	日体大荏原	
50	坪井 勇樹	2	福井	鯖江	
51	梶原 立暉	2	宮城	仙台大明成	※No.51～No.60は、全国総体個人1・2年生上位12名を除く、10名。但し、1・2年生は本人で、3年生は都道府県。 手順② 1・2年生を上位（No.51）から並べ、下位に3年生を並び替える。
52	西 湊丞	2	千葉	市立船橋	
53	太田良 伊吹	2	千葉	市立習志野	
54	小池 寛泰	2	岡山	関西	
55	角谷 太樹	1	千葉	市立船橋	
56	工島 佑心	2	大阪	清風	
57	堂徳 椋馬	1	福井	鯖江	
58	河野 将之	2	岡山	関西	
59	小川 哩夢	1	栃木	作新学院	
60	宮本 高慶	1	宮城	仙台大明成	

注1 総体1位の都道府県の所属するブロック に与える。但し、参加できる都道府県を増やすように配慮すること。

注2 日本体操協会推薦選手としてNo.28～No.29. に2名の出場権を与え、2班で抽選する。推薦選手がない場合には全国総体チーム成績2位、3位の県のブロックに各1枠を配分し、1班で抽選する。このブロック枠も参加できる都道府県を増やすように配慮すること。協会推薦があった場合、順次、資格No.28・29とNo.59・60と交替して、協会推薦選手を2班で抽選する。

注3 全ての手順を経て、No.30以外の上場枠が確定された後に開催都道府県枠を決定する。